

環境活動報告書

Environmental Report



2023



Contents

1	ごあいさつ	2
2	事業概要	3
	-1 当社の事業概要	
	-2 シンシア品川R・Cセンター 事業概要	
	-3 シンシア横浜R・Cセンター 事業概要	
	-4 シンシア品川リサイクルセンター 事業概要	
3	環境マネジメントシステムについて	7
4	環境管理組織	8
5	環境パフォーマンス	9
	-1 活動目標の達成度(2022年度)	
	-2 活動目標の概要(2023年度)	
6	インプット・アウトプット(2022年度)	13
7	環境数値(2022年度)	14
8	主要な環境パフォーマンスの指標の推移	15
	-1 シンシア品川事業所	
	-2 シンシア横浜事業所 / 全社	
9	資格の取得	17
10	環境マネジメントシステム監査結果	18
11	環境教育	19
	-1 緊急事態対応訓練	
	-2 環境月間	
12	ステークホルダーとのコミュニケーション	21

平素は当社事業にご理解・ご支援を賜り誠にありがとうございます。

「環境活動報告書2023」をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社は、「自然との共生」を企業理念とし、①R・C(資源循環)事業、②リサイクル事業、③環境整備/ビルメンテナンス事業の3つの事業において、環境への意識が高いお客様のニーズに的確なソリューションをもって対応させていただいています。

2022年度を振り返ると、新型コロナウイルスの感染が急拡大したものの、感染防止と社会・経済活動の両立に向けて行動の制限や業種別の要請等が緩和され、社会・経済活動は徐々に回復しつつあります。一方で、燃料費や物価の高騰は、社会・経済への新たな不安要素となっています。

産業廃棄物処理業は、コロナ禍においても国民生活を維持するために必要不可欠なサービスの一つとして、国及び自治体からも安定的な事業継続が求められています。当社でも従業員の安全確保を第一に操業維持を図りながら、医療機関等から発生する感染性廃棄物を確実に処理する体制を確保しております。またプラスチック資源循環促進法が2022年4月に施行され、当社としても循環ビジネスの機会にもなっています。

当社は、1999年に環境マネジメントシステム(EMS)の認証を取得し、今年で24年を迎えます。廃棄物の適正処理はもちろんのこと、焼却廃熱による発電、リサイクルルートの拡大、省資源の推進や温室効果ガスの排出抑制など、一つ一つの課題に真摯に取り組みながら、資源循環や地球温暖化という社会的課題に向き合ってきました。

環境活動報告書2023では、主に2022年度における当社の環境への取り組みをご報告いたします。是非ご一読いただき率直なご意見をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

2023年8月

環境管理総括責任者 高林 武慈

シンシアは「自然との共生」を企業理念とし、「R・C（資源循環）事業」「リサイクル事業」「環境整備／ビルメンテナンス事業」の3つを柱に伸展し続けています。

R・C（資源循環）事業

R・C（資源循環）事業は、民間最大級の都市型廃棄物処理施設である「シンシア品川R・Cセンター（東京都品川区）」と「シンシア横浜R・Cセンター（横浜市金沢区）」を拠点に、多種多様な廃棄物処理を行っています。両施設は環境負荷を抑えながら廃棄物を処理し、同時にリサイクルも可能な設備が整っています。



リサイクル事業

リサイクル事業は、「シンシア品川リサイクルセンター」を拠点に全国へネットワークを展開して、情報通信機器を中心に増え続ける不用品や廃棄物をリサイクルしています。不用品から金属類や再生利用可能なものを最大限回収し、金属素材メーカーに売却（マテリアルリサイクル）しています。売却できないものは、シンシア品川R・Cセンターにて適正処理と再資源化を行っています。

環境整備／ビルメンテナンス事業

環境整備／ビルメンテナンス事業は、企業の職場環境を整備するビルメンテナンス業務と、これに伴う不用品や廃棄物の回収とリサイクル、そのマネジメント、また廃棄物管理業務全体のアドバイスやサポート業務（環境管理業務のサポート）を行っています。



シンシア品川R・Cセンターは、東京都品川区という首都圏の中心に位置しています。私達はこちらで、事業系一般廃棄物、産業廃棄物、特別管理産業廃棄物を焼却・溶融処理しています。溶融炉は焼却後の灰（焼却灰）を高温で溶かし、溶融スラグとすることで、埋立処分されることの多かった焼却灰を建設資材として再資源化するマテリアルリサイクルが可能になりました。加えて焼却廃熱を利用して発電するサーマルリサイクルも行い、受け入れた廃棄物を可能な限り再資源化しています。



受入可能な廃棄物の種類

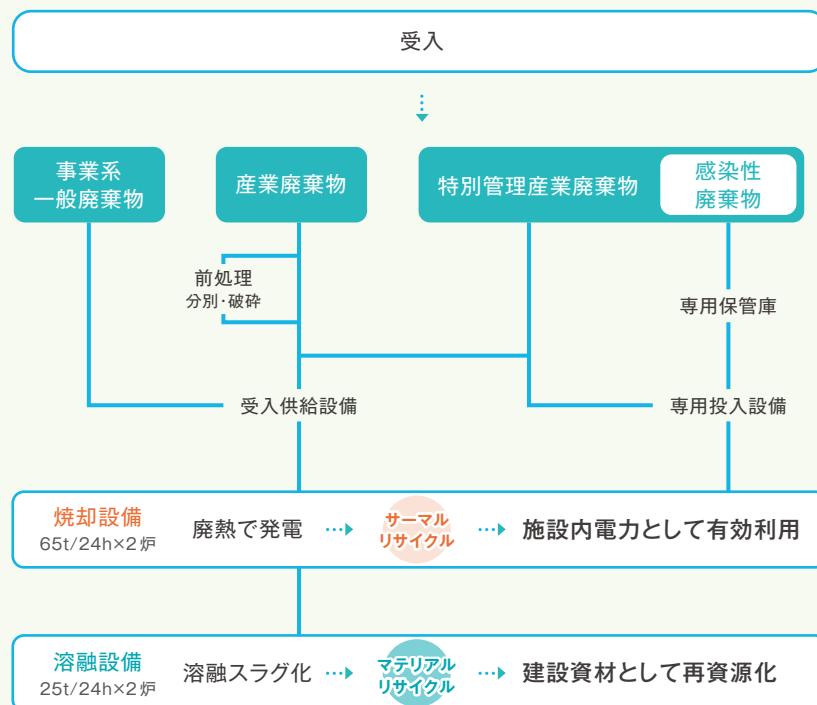
事業系一般廃棄物	普通ごみ
産業廃棄物	燃えがら、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、動植物性残さ、金属くず、ガラス・コンクリート及び陶磁器くず、ばいじん、政令13号指定廃棄物、動物系固形不要物
特別管理産業廃棄物	廃油、廃酸、廃アルカリ、特定有害産業廃棄物、感染性産業廃棄物

処理能力

焼却*	130t/24h (65t/24h×2炉)
溶融	50t/24h (25t/24h×2炉)

* 130t/24hは一般廃棄物、特別管理産業廃棄物の処理能力であり、産業廃棄物の処理能力については、142t/24h (71t/24h×2炉)となっています。

シンシア品川R・Cセンター 処理工程



シンシア横浜R・Cセンターは、2009年に横浜市金沢区に誕生しました。厳しい環境規制をクリアし、さまざまな産業廃棄物を適正に処理した上で、焼却廃熱を利用して発電するサーマルリサイクルを行っています。発電した電力は、施設内で活用し、余剰電力は売却しています。



受入可能な廃棄物の種類

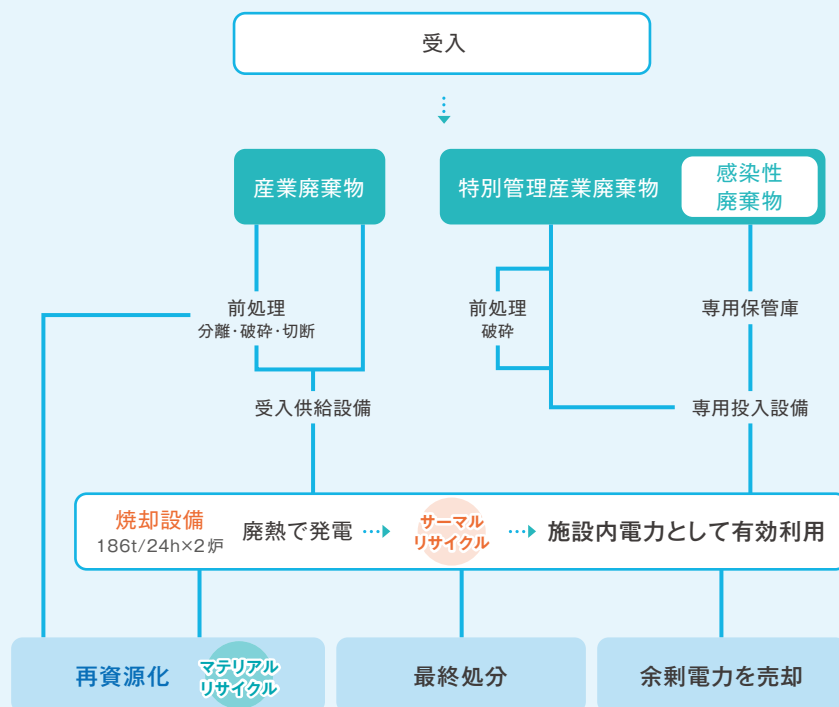
産業廃棄物 燃えがら、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート及び陶磁器くず、ばいじん、動物系固形不要物

特別管理産業廃棄物 廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類に限り、特定有害産業廃棄物であるものを除く）、感染性産業廃棄物

処理能力

焼却	372t/24h (186t/24h×2炉)
破碎	80t/9h、3.6t/9h (1.8t/9h×2基)
切断	11t/9h
分離	22.16t/9h

シンシア横浜R・Cセンター 処理工程



シンシア品川リサイクルセンターの原点は、江戸の昔、江戸中からゴミを集め、工夫を凝らし、一切捨てることなく再生利用したくず屋にあります。私達はここで、搬入された不用品や廃棄品を、丁寧な解体作業とプロの判断で選別します。その後、破碎機による「破碎」及び大型プレス機による「圧縮」を行い、金属素材メーカー等に売却し、マテリアルリサイクルを行っています。



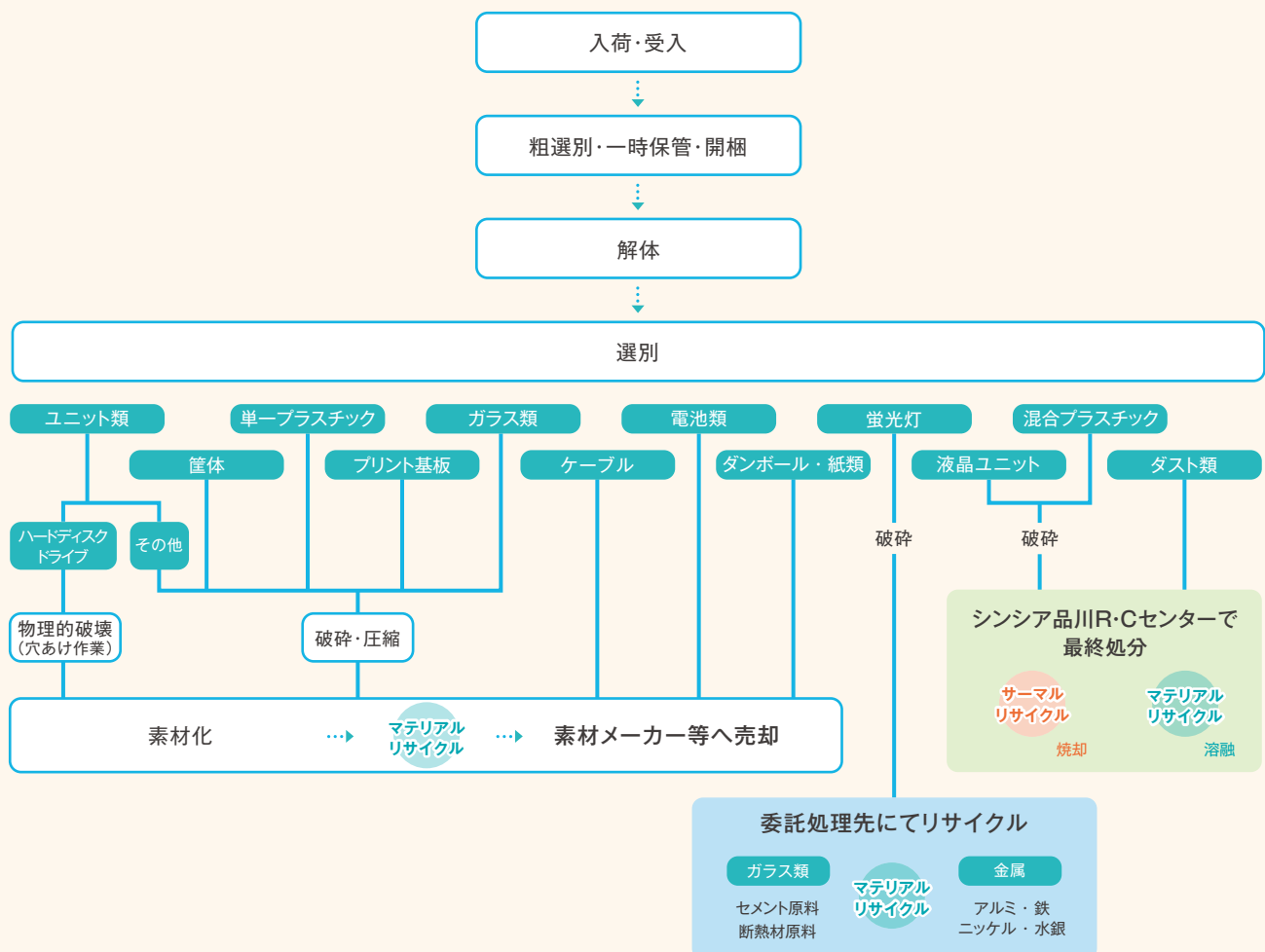
受入可能な廃棄物の種類

産業廃棄物 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（廃蛍光灯を含む）

処理能力

破碎	4.8t/8h
破碎（廃蛍光灯）	16,000本/8h
圧縮	42.2t/8h

シンシア品川リサイクルセンター 処理工程



現在ほど環境に対する意識があまり高くなかった1999年当時、当社は焼却・溶融処理施設として、日本で初めてISO14001（環境マネジメントシステム:EMS）の認証を取得し、環境事業者として、高い意識を持って環境に対して真摯に向き合い、積極的に環境保全に取り組んでまいりました。

環境方針

1. 廃棄物の適正処理・再資源化及び環境の美化を推進します。
2. 関連法令、地域社会との協定を順守し、環境汚染の未然防止に努めます。
3. 事業を取り巻く環境の変化に応じて活動目標を見直し、環境管理システムを継続的に改善することにより、環境負荷を低減します。
4. 省資源・省エネルギーを推進し、温室効果ガスの排出削減に努めます。
5. 品川事業所、横浜事業所及び本社で働く一人ひとりが、環境に対する意識の向上に努めます。
6. この環境方針は、一般にも公開します。

2017年4月1日
株式会社 シンシア
環境管理総括責任者 高林武慈

環境マネジメントシステム認証取得の経緯（1999年～2022年）

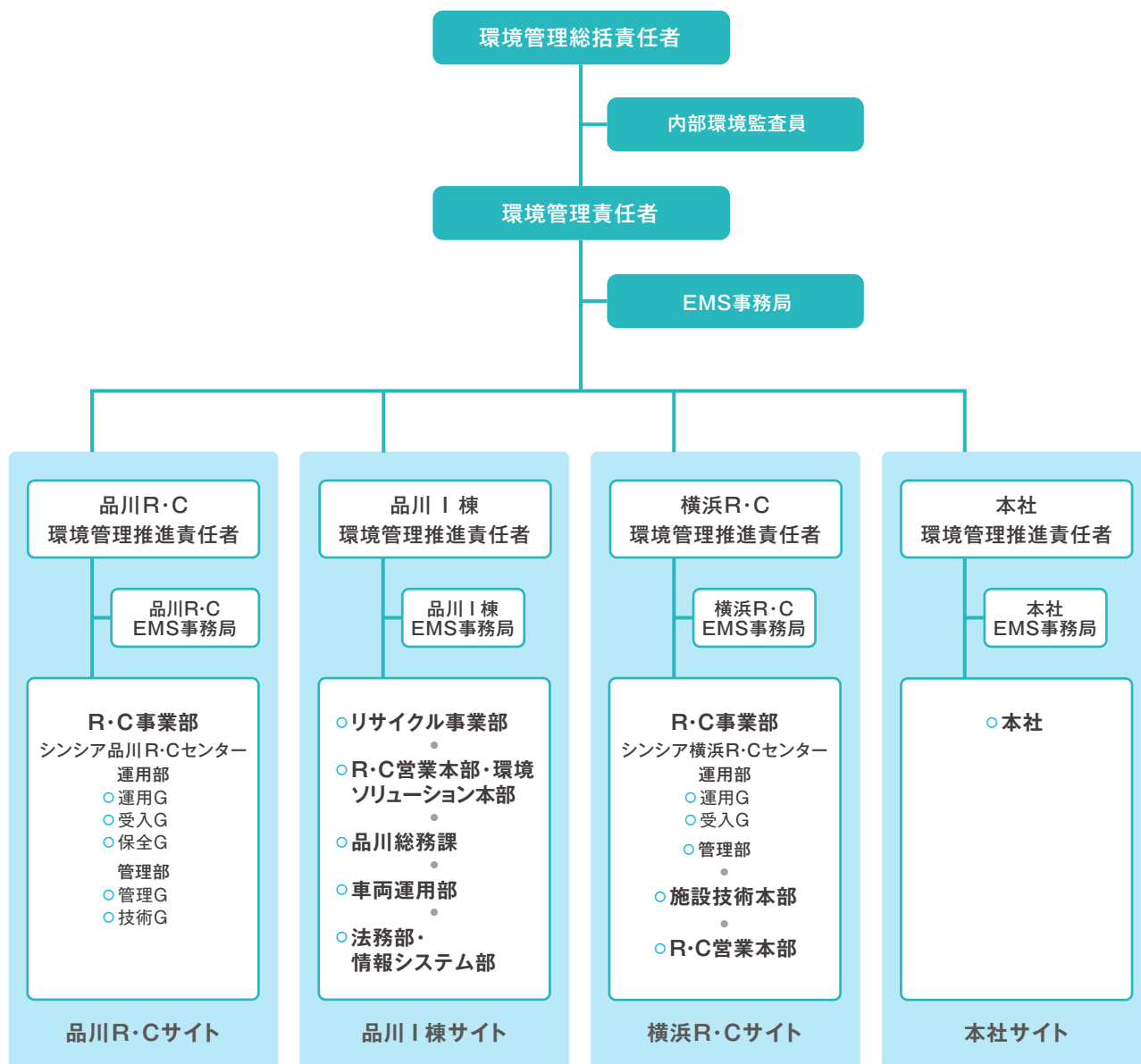
- | | | |
|-------|-----|---|
| 1999年 | 6月 | R・Cセンター ISO14001 認証取得を目指しキックオフ |
| | 9月 | 認証取得に備え事前審査実行 |
| | 11月 | ISO14001登録審査実施 |
| | | R・Cセンター ISO14001 認証取得 |
| 2001年 | 12月 | 登録範囲にR・C営業部を追加
R・C事業本部へ登録範囲拡大 |
| 2007年 | 9月 | 登録範囲にリサイクルセンター、スタッフ部門を追加
シンシア品川へ登録範囲拡大 |
| 2010年 | 10月 | 平成22年度「日本規格協会マネジメントシステム永年登録賞」
(ISO14001)を(一財)日本規格協会殿より受賞 |
| 2011年 | 11月 | 第4回更新審査登録範囲にシンシア横浜事業所を追加 |
| 2012年 | 10月 | 登録範囲に本社を追加 |
| 2017年 | 9月 | 第6回更新審査(移行審査含む) |
| | 11月 | ISO14001:2015へ移行を完了 |
| 2020年 | 9月 | 第7回更新審査 |
| 2022年 | 9月 | 第7-2回定期維持審査 |

※ 組織名称は全て当時の名称です。



当社は、事業に関連する各種法令の順守やステークホルダーの要求を満たすため、ISO14001の規格に沿った環境管理組織を構築しています。当社では4つのサイトを編成し、それぞれのサイトでの事業活動による環境負荷の減に努める活動を行っています。定期的に各種法令の順守状況やステークホルダーの要求を満たしているかを確認し、構築した環境マネジメントシステムがISO14001の規格に適合しているか、内部監査を実施しています。

環境管理組織図



○ 活動単位

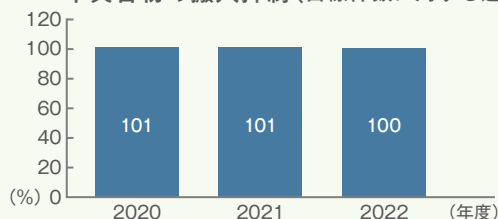
当社の各サイトでは、それぞれ環境負荷低減のための活動目標を定め、達成に向けて取り組んでいます。2022年度の各サイトの活動目標はすべて達成することができました。

品川R・Cサイト

品川R・Cサイトでは、不具合物が搬入されていないか定期的にサンプリング検査しています。また、設備を安定的に運用するための改善策を従業員が提案し、順次実施しています。

No.	活動部門	活動目標	目標値	実績値	判定
1	運用G 受入G 技術G	不具合物の搬入の抑制	・展開検査又は燃焼試験： 156件以上	156件	達成
2	運用G 受入G 保全G	設備の安定的な運用の ための提案活動	・月毎の推進項目の実施	計画通り毎月実施	達成

■ 不具合物の搬入抑制（目標件数に対する達成率）

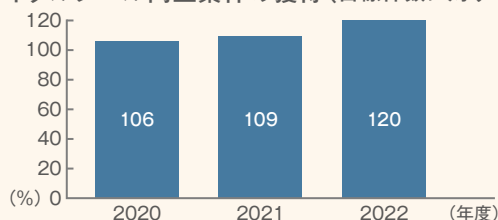


品川I棟サイト

品川I棟サイトでは、新たな活動目標として、コンピュータパーツのリユース活動とエコドライブによる二酸化炭素排出削減の活動を開始しました。R・C営業本部では、お客様にリサイクル率が高まるような提案を継続して行っています。

No.	活動部門	活動目標	目標値	実績値	判定
1	リサイクルセンター スクラップ部	パーツリユース品の回収	・メモリの回収 ・CPUの回収	・メモリ回収：目標の242% ・CPU回収：目標の240%	達成
2	車両管理部	エコドライブの推進 (CO ₂ 排出削減)	・ドライブレコーダーによる危険運転 (「急ブレーキ」等3項目)の検知件数 10件/台・月以下の車両が5台/月以上	10.75台/月 (年間平均)	達成
3	R・C営業本部	リサイクルレベル 向上案件の獲得	・リサイクルレベルが向上した 新規受注件数： 前年度実績比90%以上	120%	達成

■ リサイクルレベル向上案件の獲得（目標件数に対する達成率）



横浜R・Cサイト

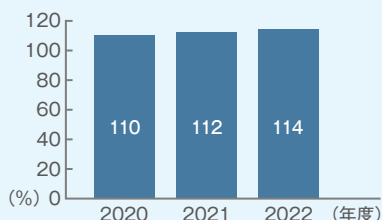
横浜R・Cセンターでは、排気ガス処理薬品の使用量削減や搬入物の性状を確認する活動に取り組んでいます。施設技術本部では、場内照明を順次LEDに交換し電力使用量を削減する取り組みを行っています。

No.	活動部門	活動目標	目標値	実績値	判定
1	運用G	排ガス処理で使用する粉体薬品の削減	・粉体薬品の使用量： 3,831.6kg/日・炉 以下	・3,435.0kg/日・炉	達成
2	管理部	飛灰削減のための搬入廃棄物の性状確認及び是正対応	・性状検査：320件以上 ・展開検査：28件以上	・性状検査：356件 ・展開検査：39件	達成
3	施設技術本部	電力量の把握と照明設備の省エネ活動	・毎月の使用電力量の把握 ・毎月の省エネ推進活動の推進	・使用電力量の把握：毎月実施 ・蛍光灯（365灯）をLED化し、省エネ化を推進	達成

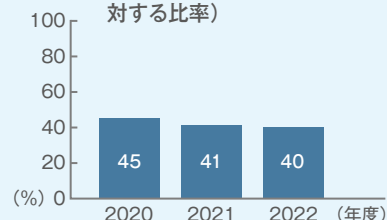
■ 粉体薬品の使用量削減
（目標値に対する達成率）



■ 搬入廃棄物の性状確認
（目標件数に対する達成率）



■ 照明設備の省エネ活動
（平均使用電力量（LED交換前）に対する比率）



本社サイト

本社サイトでは、清掃業務で使用する洗剤等消耗品の使用量削減や残業時間削減に取り組んでいます。

No.	活動部門	活動目標	目標値	実績値	判定
1	本社	消耗品の使用量削減	・対象5拠点における目標使用量以下	・対象2拠点で拠点目標値に対し未達だったが、5拠点全体では目標値を達成した	達成
2		業務見直し・効率化による残業時間の抑制	・本社勤務者年間残業時間：2021年度実績以下 （1人あたり平均又は総残業時間）	・一人あたり残業時間：2021年度比98.6% ・総残業時間：2021年度比1.5%増	達成

2023年度の各サイトの活動目標は、以下の通りです。目標達成へ向け活動して参ります。

品川R・Cサイト

No.	担当部門	活動目標	管理項目・目標値
1	運用G 受入G 技術G	不具合物の搬入の抑制	・展開検査又は燃焼試験：年156件以上
2	運用G 受入G 保全G	設備の安定的な運用のための提案活動	・月次の推進項目の実施

品川I棟サイト

No.	担当部門	活動目標	管理項目・目標値
1	リサイクル事業部	パーツリユース品の回収	・メモリ回収量：前年度実績の200%以上 ・CPU回収量：前年度実績の200%以上
2	車両運用部	エコドライブの推進 (CO ₂ 排出削減)	・ドライブレコーダーによる危険運転 (「急ブレーキ」等3項目)の検知件数： 10件/台・月以下の車両が5台/月 以上
3	R・C営業本部 環境ソリューション本部	リサイクルレベル向上案件の獲得	・新規獲得件数：前年度実績件数の90%以上

横浜R・Cサイト

No.	担当部門	活動目標	管理項目・目標値
1	運用G	排ガス処理で使用する粉体薬品の削減	・粉体薬品の使用量：3,831.6kg/日・炉 以下
2	管理部	飛灰削減のための搬入廃棄物の性状確認及び是正対応	・性状検査実施件数：年340件以上 ・展開検査実施件数：年32件以上
3	施設技術本部	電力量の把握と空調機（エアコン）の省エネ活動	・使用電力量の把握 ・空調機の計画通りの更新

本社サイト

No.	担当部門	活動目標	管理項目・目標値
1	本社	消耗品の使用量削減	・対象拠点での消耗品の使用量：拠点ごとの設定目標値
2		業務見直し・効率化による残業時間の抑制	・本社勤務者年間残業時間：2019年度実績以下 ・毎月の推進項目を実施

当社は、事業活動に伴う環境負荷を把握し、廃棄物の適正な処理はもちろんのこと、省エネルギー、廃棄物のリサイクル等、環境負荷の軽減につながる取り組みを継続して実施しています。

以下は2022年度の実績値です。

INPUT



シンシア品川R-Cセンター



品川リサイクルセンター

シンシア品川事業所

一般廃棄物受入量：	4,468 t
産業廃棄物受入量：	24,109 t
特管廃棄物受入量：	12,998 t
電力消費量：	7,757 MWh
灯油消費量：	545 kL



シンシア横浜R-Cセンター

シンシア横浜事業所

産業廃棄物受入量：	83,576 t
特管廃棄物受入量：	6,416 t
電力消費量：	15,889 MWh
都市ガス消費量：	132 m ³

事業活動

OUTPUT

シンシア品川事業所

廃棄物の 搬出量

ばいじん：	3,142 t
廃蛍光ランプ破砕物：	8 t
安定型混合廃棄物：	501 t

CO₂の 排出量

34,080 t-CO₂

有価物の 売却量

溶融スラグ：	1,851 t
古紙：	276 t
金属：	1,782 t
プラスチック：	72 t

シンシア横浜事業所

廃棄物の 搬出量

ばいじん：	7,600 t
燃えがら：	5,881 t

CO₂の 排出量

174,101 t-CO₂

廃熱発電に よる売電量

29,245 MWh

廃棄物を焼却する際に発生する硫黄酸化物や窒素酸化物、塩化水素等の有害ガスは、排ガス処理設備にてクリーンなガスに処理した後に大気に放出しています。排ガス処理が適切に行われているか定期的に測定（分析業者に委託）しています。測定結果については基準値を下回っていることを確認しています。

シンシア品川R・Cセンター 排ガス測定数値

設備	測定項目	単位	基準	測定結果					
				4月	6月	8月	10月	12月	3月
焼却1号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.05	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	硫黄酸化物	ppm	20	0.4未満	0.3未満	0.3未満	0.4未満	0.4未満	0.4未満
	窒素酸化物	ppm	70	34	42	36	45	25	34
	塩化水素	ppm	20	1未満	1	1未満	1未満	2未満	1
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	1	—	0.00028	—	—	—	—
焼却2号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.05	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.006	0.001未満
	硫黄酸化物	ppm	20	0.3未満	0.4未満	0.3未満	0.4未満	0.4未満	0.3未満
	窒素酸化物	ppm	70	32	38	40	31	38	28
	塩化水素	ppm	20	1	1	1	2	1	1未満
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	1	—	0.0019	—	—	—	—
熔融1号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.05	0.002未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	—	—
	硫黄酸化物	ppm	20	0.3未満	0.4未満	0.4未満	0.4未満	—	—
	窒素酸化物	ppm	70	18	36	29	25	—	—
	塩化水素	ppm	20	1	1	1未満	1未満	—	—
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	1	—	0.073	—	—	—	—
熔融2号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.05	—	—	—	—	0.001未満	0.001未満
	硫黄酸化物	ppm	20	—	—	—	—	0.6	0.4未満
	窒素酸化物	ppm	70	—	—	—	—	25	23
	塩化水素	ppm	20	—	—	—	—	1未満	2未満
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	1	—	—	—	—	—	—

*1 標準状態(0℃、101.32kPa)を示す。

測定月：サンプリング月，未満：測定限界未満の数値，—：測定なし

シンシア横浜R・Cセンター 排ガス測定数値

設備	測定項目	単位	基準	測定結果					
				5月	6月	8月	10月	12月	2月
焼却1号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.02	0.001	0.001	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	硫黄酸化物	ppm	20	1.7	1.5	0.5	0.7	2.5	0.6
	窒素酸化物	ppm	45	20	23	25	24	24	25
	塩化水素	ppm	20	12	5	3	7	8	8
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	0.1	—	0.011	—	0.00097	—	—
焼却2号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.02	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	硫黄酸化物	ppm	20	1.1	0.7	0.5未満	1.9	0.8	0.5未満
	窒素酸化物	ppm	45	13	16	14	24	28	15
	塩化水素	ppm	20	11	7	8	9	6	3
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	0.1	—	0.00032	—	0.0014	—	—

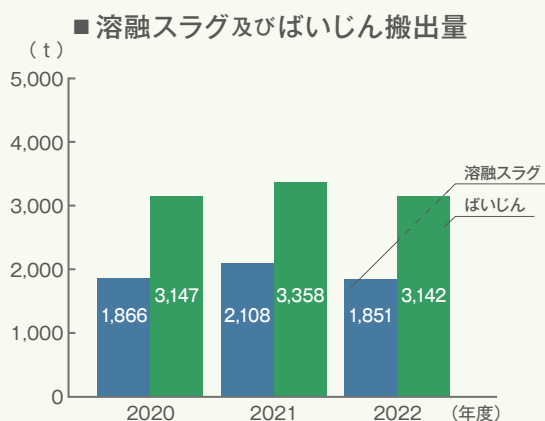
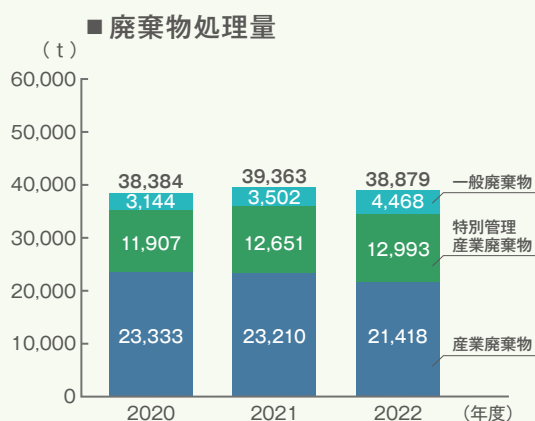
*1 標準状態(0℃、101.32kPa)を示す。

測定月：サンプリング月，未満：測定限界未満の数値，—：測定なし

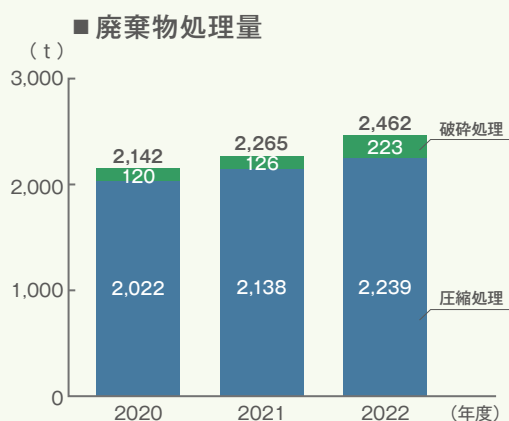
受け入れた廃棄物は適正に処理し、できる限り再資源化することは言うまでもありません。また、さらなる環境負荷の低減を目指して、主要な環境パフォーマンスの指標を把握しながら、資源やエネルギーの無駄を無くす取り組みを推進しています。

シンシア品川事業所（2020～2022年度）

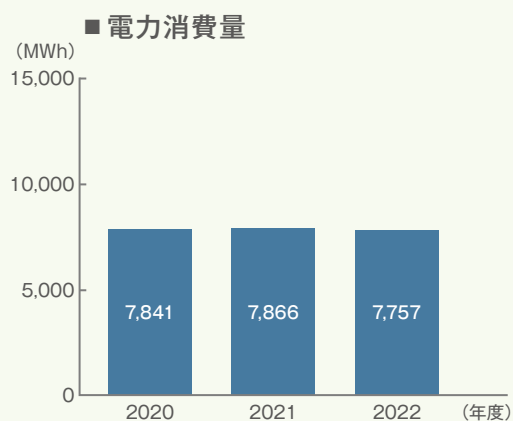
シンシア品川R・Cセンター



シンシア品川リサイクルセンター

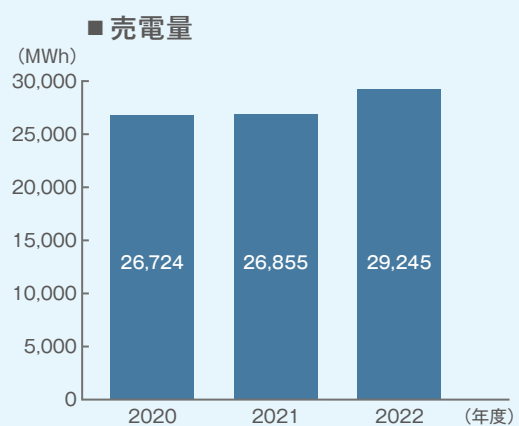
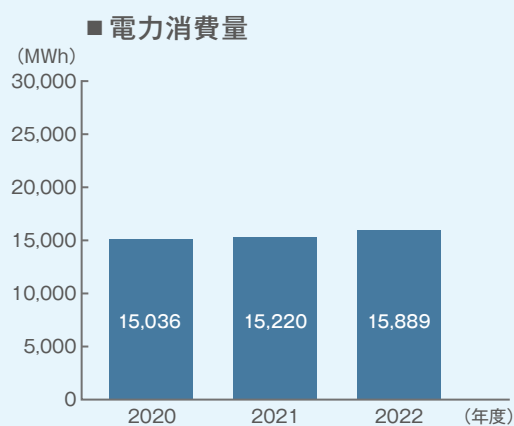
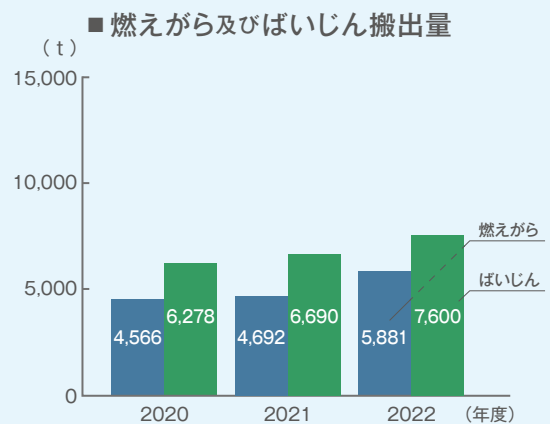
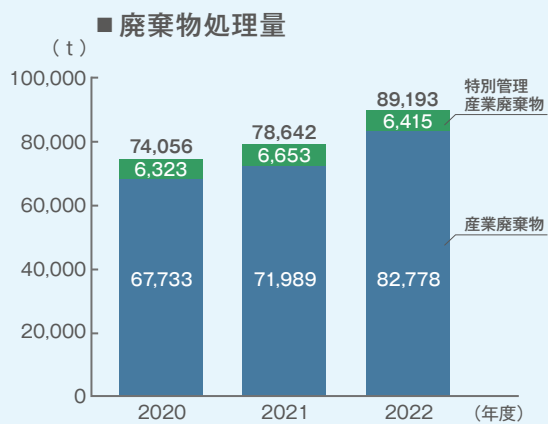


シンシア品川事業所全体

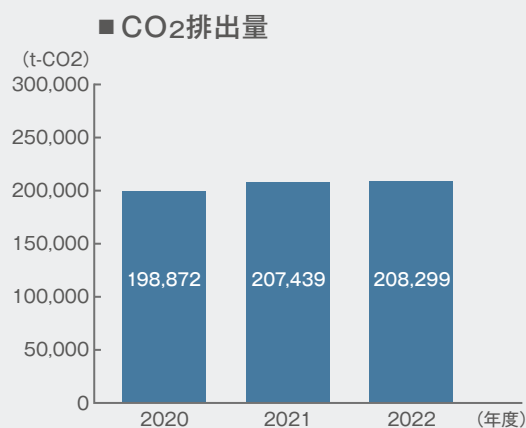


シンシア横浜事業所 (2020~2022年度)

シンシア横浜R・Cセンター



全社 (2020~2022年度)



環境負荷低減のための確かな技術の確証として、資格の取得や外部講習会への参加を積極的に行っています。講習会や、資格取得時に得た知識と技術は、日々の業務に活かされ、廃棄物の適正処理と環境負荷低減に役立っています。取得した資格とその取得者数については、下記の通りです。

資格および受講講習の名称	人数	資格および受講講習の名称	人数
産業廃棄物焼却施設技術管理士	32名	環境計量士(濃度関係)	1名
ごみ処理施設技術管理士	17名	公害防止管理者(大気関係)	9名
最終処分場技術管理士	4名	公害防止管理者(水質関係)	5名
破砕・リサイクル施設技術管理士	11名	公害防止管理者(騒音)	3名
特別管理産業廃棄物管理責任者	14名	公害防止管理者(振動)	1名
産業廃棄物(特別管理産業廃棄物)処分業講習修了者	42名	公害防止管理者(ダイオキシン類)	2名
産業廃棄物(特別管理産業廃棄物)収集運搬講習修了者	31名	東京都公害防止管理者	5名
冷媒回収技術者	5名	衛生管理者	14名
エネルギー管理士	3名	危険物取扱者 甲種	3名
電気主任技術者 2種	1名	危険物取扱者 乙種	74名
電気主任技術者 3種	2名	消防設備士	8名
電気工事士	19名	高圧ガス製造保安責任者	4名
ボイラー・タービン主任技術者	19名	建築物環境衛生管理技術者	3名
特級ボイラー技士	2名	ビルクリーニング技能士	3名
一級、二級ボイラー技士	63名	PCB収集運搬作業従事者講習修了者	11名
ボイラー整備士	10名	解体工事施工技士	2名
クレーン運転業務特別教育修了者	88名	一級土木施工管理技士	1名
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習修了者	73名	一級管工事施工管理技士	1名
特定化学物質作業主任者講習修了者	44名	技術士(衛生工学部門)	1名
有機溶剤作業主任者技能講習修了者	32名	環境カウンセラー(事業者部門)	2名

2023年6月現在

内部環境監査（2022年度）

環境マネジメントシステムを確実にかつ効率的に推進するため、部門間の相互監査を実施し、ISO14001の要求事項への適合性の確認及び、取り組みに対する評価や指摘・改善提案などを行っています。

2022年度は、新型コロナウイルスの感染予防対策を取りながらの実施となりました。一部の監査ではweb会議システムによる遠隔での監査も行われ、また証拠書類やヒヤリング方法を工夫することにより、環境パフォーマンスへつながる改善事項を挙げることができました。監査員教育においても教育用動画を活用し、効率的に教育を実施しました。

事業所	実施月	指摘事項	改善事項
品川事業所	8月～11月	0件	2件
横浜事業所	10月～11月	0件	4件
本社	11月	0件	3件

外部認証機関による審査（2022年度）

外部認証機関による定期維持審査（年1回）と更新審査（3年に1回）を受審しています。2022年度はシンシア品川事業所とシンシア横浜事業所について定期維持審査を受審しました。審査による指摘事項および改善事項はなく終了しました。



粉体薬品受入口の視察



中央制御室の視察

当社では従業員の経験に応じて、資格の取得や外部講習会への参加、社内教育等により環境教育を実施しています。

【緊急事態対応訓練】シンシア品川事業所、シンシア横浜事業所では緊急事態を想定し、定期的に緊急事態対応訓練を行っています。2022年度に実施した訓練の一部をご紹介します。

ごみピット火災対応訓練（品川R・Cセンター）

ごみピットで火災が発生した時の対応訓練を行いました。放水銃・屋内消火栓・空気呼吸器などの使用方法を確認しました。訓練後も課題の検出やマニュアルの改訂の必要性などの意見交換を行いました。



屋内消火栓による放水



空気呼吸器の装着

緊急事態総合訓練（横浜R・Cセンター）

首都直下型地震を想定して駐車場への避難訓練を行いました。また同時に、高波対策として、止水板の取り付けと土嚢袋の設置訓練も行いました。前回訓練時に挙げられた課題もクリアでき、スムーズな設置対応ができました。今回の訓練で土嚢袋が劣化することがわかり、点検・更新時期・保管場所などを検討しました。



従業員の駐車場への避難



止水板の取り付け

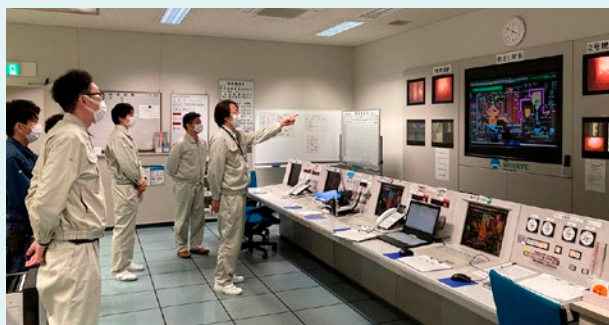
【環境月間】従業員の環境意識向上を目的として、例年6月と11月に「環境月間」を設定し、他部門の業務内容を理解するためのイベントや勉強会を実施しています。2022年度は、年間で計8件実施しました。

2022年度環境月間実施イベント

開催月	主催	活動名	参加者数
6月	品川総務部	大井ふ頭緑道公園のごみ拾い活動	計18名参加
	横浜総務部	通勤経路のごみ拾い活動	計19名参加
11月	品川総務部	大井ふ頭緑道公園のごみ拾い活動	計41名参加
	リサイクルセンター	3Rとは何か ～3Rについて知ろう～	
	車両管理部	運搬車両について理解してもらおう	
	R・C営業本部	管理棟/節電パトロールの実施	
	横浜総務部	通勤経路のごみ拾い活動	
	品川運用G	焼却溶融設備見学	

溶融設備見学

品川R・Cセンターでは、日ごろプラント内に入る機会がない従業員を対象に溶融設備の見学会を行いました。中央制御室で溶融プロセス全体の説明を受けた後に、実際にプラント内を歩いて溶融の各設備を見学しました。



中央制御室での説明



溶融炉の見学

ごみ拾い活動

シンシア品川事業所では、八潮自治連合会様のご協力のもと、大井ふ頭緑道公園のごみ拾い活動を年2回（6月、11月）行っています。シンシア横浜事業所では、並木北駅及び並木中央駅から横浜事業所まで従業員の通勤経路のごみ拾い活動を年2回（6月、11月）行っています。

ごみ拾い活動は毎年両サイトで続けてきており、回収するごみの量は年々減ってきているようです。近隣の環境美化はもとより、道路や公園内を通行する方々が気持ちよく利用できるように、これからも活動を続けてまいります。



横浜事業所（通勤経路のごみ拾い）



品川事業所（大井ふ頭緑道公園のごみ拾い）

地域住民の皆様をはじめとする全てのステークホルダーに対し、常時施設を公開しております。

また、管轄行政に対し、各種法令に基づく報告や必要に応じて随時連絡や相談等を行い、法令順守や行政とのコミュニケーションを図っています。

施設見学・現地確認の対応について

当社の施設に対する施設見学や現地確認を随時お受けしております。施設の模型を使って処理・リサイクルのプロセスやサービス内容を説明した後、各設備の運転や監視を行っている制御室、廃棄物の焼却炉への投入や廃棄物が焼却されている焼却炉内、パソコンや情報通信機器の解体の様子等をご覧くださいました。2022年度は、排出事業者様等延べ706名の方々にお越しいただきました。



管轄行政による確認

管轄行政より定期的に立入検査を受け、適正な施設の維持管理ができるようご指導いただいています。



△ シンシア品川R・Cセンター
東京都環境局殿の立入検査の様子



△ シンシア横浜R・Cセンター
横浜市資源循環局殿の立入検査の様子





〒140-0013 東京都品川区南大井6丁目26番3号 大森ベルポートD館6F
TEL 03-3764-5300(代表) FAX 03-3764-5347

お問い合わせはinfo@sincerehq.comへ